

教科 社会(歴史的分野) 学年 第2学年

単元名	単元の到達目標(小単元のわらい)	単元のまとまりの評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第3章 中世の日本と世界 3節 結びつく民衆と下剋上の社会	応仁の乱後の社会的な変動や戦国の動乱などから、武家政治の展開について理解する。 農業などの諸産業が発達し、畿内を中心とした都市や農村に自治的なしくみが成立したことを理解するとともに、室町文化には禅宗の影響や現在との結びつきがみられることに気づく。	農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的なしくみの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などもとに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を調べまとめ、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。	農業や商工業の発達に着目して、事象を相互に関連づけるなどして、民衆の成長が社会に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第4章 近世の日本と世界 1節 結びつく世界との出会い	14～16世紀のヨーロッパでは、ルネサンスや宗教改革、アジアへの新航路の開拓などの動きがおこり、ヨーロッパ諸国が貿易や布教などを目的に世界各地へ進出していったことを理解する。 ヨーロッパ人が日本に來航した背景や目的を理解し、それが日本の社会に及ぼした影響について考える。	ヨーロッパ人來航の背景とその影響などをもとに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報について調べてまとめ、それが日本の社会に及ぼした影響について理解している。	交易の広がりとその影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、豊かな交易が行われていたアジアにヨーロッパ諸国が進出する中で、世界の交易の空間的な広がりが生み出され、それを背景として日本とヨーロッパ諸国の接触がおこったことや、日本の政治や文化に与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。	世界の動きと関連づけながら、中世から近世への過渡期にある日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第4章 近世の日本と世界 2節 天下統一への歩み	織田信長・豊臣秀吉による全国の統一事業や、朝鮮への出兵などの対外関係について捉え、近世社会の基礎がつけられていったことを理解する。 海外から兩蛮文化などが取り入れられる一方で、武將や豪商の気風や経済力を背景とした豪壮・華麗な文化が生み出されたことに気づく。	織田信長・豊臣秀吉による統一事業とその当時の対外関係、武將や豪商などの生活文化の展開などをもとに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を調べまとめ、近世社会の基礎がつけられたことを理解している。	統一政権の諸政策の目的などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、中世社会から近世社会への変化の様子や、日本の政治や文化に与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。	信長・秀吉による統一事業により、近世社会の基礎がつけられていったことについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第4章 近世の日本と世界 3節 幕藩体制の確立と鎖国	江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策と鎖国下の対外関係、身分制度の確立と農村の様子を捉え、幕府の政治の特色について考える。 江戸幕府により、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。	江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などをもとに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を調べまとめ、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。	統一政権の諸政策の目的などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、江戸幕府により全国を支配するしくみがつけられ、都市や農村における生活が変化したことや、安定した社会が構築されたことなどについて多面的・多角的に考察し、表現している。	江戸幕府の成立と、幕藩体制による支配の確立について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第4章 近世の日本と世界 4節 経済の成長と幕政の改革	産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりについて捉え、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解する。 貨幣経済の広まりや百姓一揆などの農村の変化、江戸幕府の政治改革について理解するとともに、新しい学問・思想の動きに気づく。	産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりや、社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどをもとに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を調べまとめ、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたこと、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。	産業の発達と文化の担い手の変化や、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、都市を中心とした経済が形成されていく中で、日本の文化の空間的な広がりが生み出され、それを背景として各地方の生活文化が生まれたことや、生産技術の向上や交通の整備と町人文化の特徴、貨幣経済が農村に広がる中で経済的な格差が生み出され、それを背景として百姓一揆が起こったことや、社会や経済の変化への対応としての諸改革の展開などについて多面的・多角的に考察し、表現している。	産業の発達、教育の普及と文化の広がり、農村の変化、江戸幕府の政治改革など、日本の近世社会の発展と変化について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第5章 日本の近代化と国際社会 1節 近代世界の確立とアジア	欧米諸国が、市民革命や産業革命により近代社会を成立させたことを理解する。 近代社会を成立させた欧米諸国が、新たな市場や原料の供給地を求めてアジアへ進出したことについて考える。	欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどをもとに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を調べまとめ、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。	工業化の進展と政治や社会の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、欧米諸国の市場や原料供給地を求めたアジアへの進出が、日本の政治や社会に与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。	欧米諸国が市民革命や産業革命により近代社会を成立させ、アジアへ進出していったことについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第5章 日本の近代化と国際社会 2節 開国と幕府政治の終わり	社会の変動や欧米諸国の接近に対する江戸幕府の対応・政治改革について捉え、幕府政治がしだいに行き詰まりをみせたことを理解する。 幕末の開国と、その政治的・社会的な影響について、欧米諸国のアジア進出との関わりから理解する。	開国とその影響などをもとに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報について調べてまとめ、開国によって人々の生活が大きく変化したことを理解している。	幕府が対外政策を転換して開国したことなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、開国が政治や人々の生活に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	欧米諸国のアジア進出が日本の開国をもたらしたことや、開国の影響と江戸幕府の滅亡について、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。
第5章 日本の近代化と国際社会 3節 明治維新と立憲国家への歩み	新政府による政治の改革や、富国強兵・殖産興業の政策、文明開化の動きについて捉え、明治維新により近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解する。 自由民権運動や大日本帝国憲法の制定について捉え、立憲国家が成立して議会政治が始まったことを理解する。	富国強兵・殖産興業の政策、文明開化の風潮、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などをもとに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報について調べてまとめ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて人々の生活が大きく変化したことや、立憲国家が成立して議会政治が始まったことを理解している。	明治政府の諸改革の目的や、議会政治の展開などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、明治政府の諸改革が政治や文化や人々の生活に与えた影響や、現代の政治とのつながりについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	明治維新によって近代国家の基礎が整えられ、人々の生活が大きく変化したことについて、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。

単元名	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第5章 日本の近代化と国際社会 4節 激動する東アジアと日清・日露戦争	条約改正の歩みや日清・日露戦争について捉え、日本の国際的地位が向上したことを、大陸との関係と関わらせて理解する。 日清・日露戦争を通じて、日本をとりまく国際関係が変化したことについて考える。	日清・日露戦争、条約改正などをもとに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報について調べてまとめ、日本の国際的地位が向上したことを理解している。	議会政治や外交の展開などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本と世界との関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。	国際的な視野に立って、日本の国際的な地位が向上したことについて、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。
第5章 日本の近代化と国際社会 5節 近代の産業と文化の発展	日本でも産業革命が進み、近代産業が発展したことと、それによる社会の変化について理解する。 学問・教育・科学・芸術の発展を背景に、近代文化が形成されたことを理解する。	日本の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などをもとに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報について調べてまとめ、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。	近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、産業の発展が国民生活や文化に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	日本の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問や教育の発展について、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。